

高齢者福祉施設における
救急要請ガイドブック

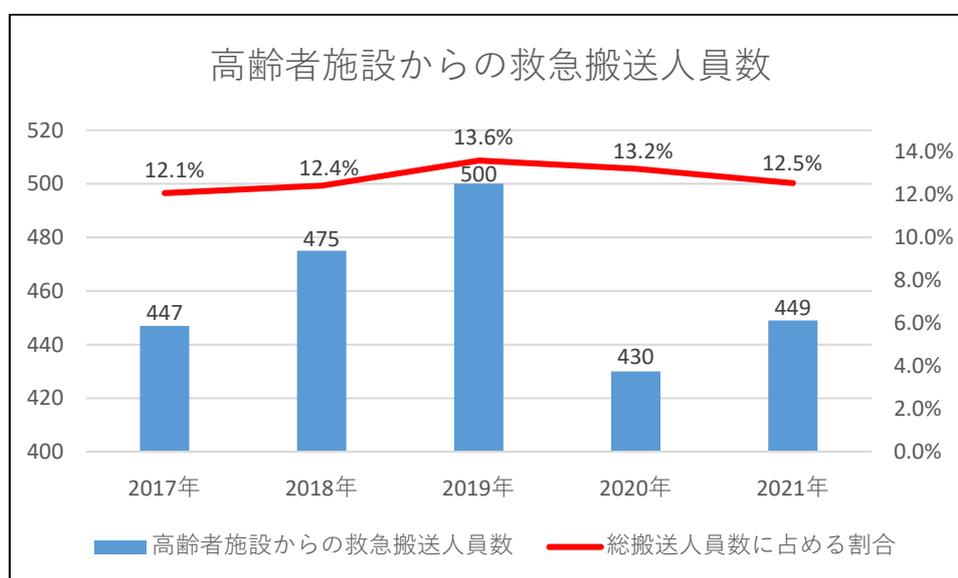
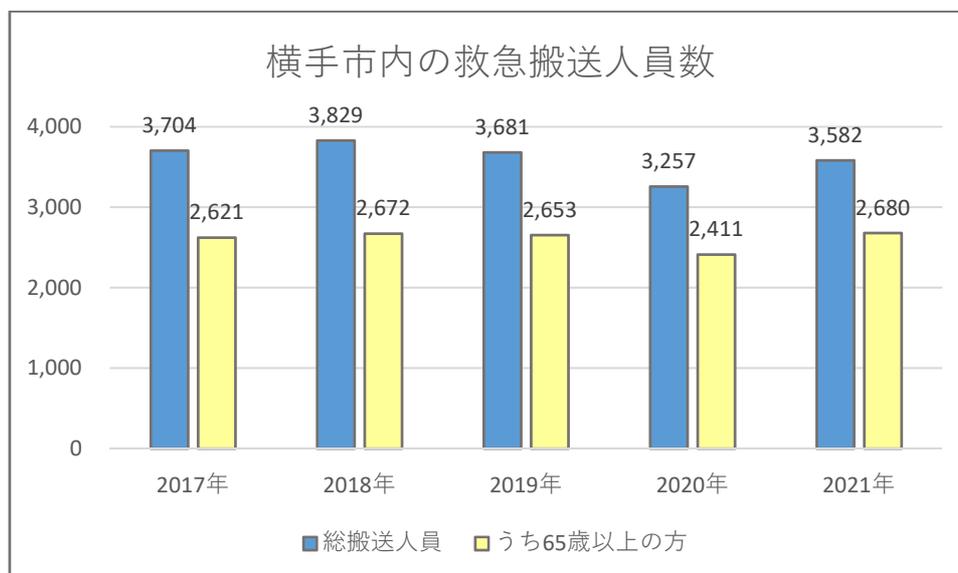


YOKOTE CITY FIRE DEPARTMENT

横手市消防本部

はじめに

横手市では高齢化の進展により、65歳以上の高齢者の救急搬送の割合が高くなっており、高齢者福祉施設（以下「高齢者施設」といいます。）からの救急搬送も多くなっております。



高齢者施設からの救急要請は利用者の急病によるものが多い状況ですが、施設内での転倒など不慮の事故に起因するものも発生しております。中には「もう少しだけ注意をしておけば・・・」「事前に対策をしていれば・・・」といった事案もあり、未然に防ぐことができたものも含まれています。

このガイドブックでは、施設内で救急車が必要になるような病気やケガ等をほんの少しの注意や心掛けで防ぐことが出来るポイントや、いざという時の心肺蘇生や救急車の要請が円滑に行えるように作成しています。

本ガイドブックに記載の各手順や考え方については、様々な種別の施設が存在する中、その役割に応じて必要な職員の配置基準や資格なども異なっていることから施設の種別や規模によっては対応が難しい部分があることも想定されます。

そのような場合は利用者の安全確保を第一に考えていただき、各施設において現時点で実施可能な対応策を検討してもらい、日頃から緊急事態を意識した取組みを行ってください。

利用者の皆様が安心して元気に過ごせるようガイドブックをお役立ていただければと思います。

令和5年1月 横手市消防本部



○本ガイドブックは、横手市ホームページにも掲載しております。
ダウンロードしてご活用ください。

URL : <https://www.city.yokote.lg.jp/syoubou/1001575/1008769.html>

検索ワード [横手市 救急要請ガイドブック]

- 高齢者福祉施設における救急要請ガイドブック
- 救急情報連絡シート（様式）

目次

・ はじめに -----	1
・ 目次 -----	3

1 救急事故を予防しましょう

・ 感染防止対策 -----	4
・ 転倒・転落の予防 -----	4
・ 誤嚥・窒息の予防 -----	4
・ 熱中症の予防 -----	5
・ ヒートショックの予防 -----	5
・ 服薬後にも注意 -----	5

2 緊急事態に備えましょう

・ かかりつけ医・協力病院との連絡体制の構築 -----	6
・ 生活状況の記録、「救急情報連絡シート」の作成 -----	6
・ 救急情報連絡シート<記載例>-----	7
・ 応急手当の習得 -----	9

3 救急要請のポイント

・ 初動のポイント（必ずしていただきたいこと -----	10
・ その他の実施事項（出来ればしていただきたいこと） -----	12
・ 救急隊が到着したら	
・ 救急車への同乗	

4 資料編

・ 関連ホームページURL -----	13
・ 成人の救命処置の手順（新型コロナウイルス感染症対応版） -----	14
・ AED 使用の手順 -----	18
・ ためらわずに救急車を呼んでいただきたい症状（高齢者編・成人編）	22
・ 屋内における事故の予防と対策（高齢者編） -----	24
・ 全国版救急受診アプリ「Q助」 -----	25
・ 救急情報連絡シート（様式） -----	27

1 救急事故を予防しましょう

1 感染予防策

新型コロナウイルス感染症対策はもちろんのことインフルエンザやノロウイルスなどの感染症が発生・拡大しないように、職員さんだけでなく利用者全員の手洗い、手指消毒や必要に応じたマスクの着用を徹底してください。

感染症流行期には、家族等の来訪者の手指消毒、マスク着用の徹底、場合によっては施設への立ち入りを制限する等の対応が必要となる場合があります。

感染防止対策には、感染経路（接触、飛沫、空気など）別の対策や嘔吐物等の汚染物の正しい処理方法などの正しい知識を身につけることが大切です。

[参考] 高齢者介護施設における感染対策マニュアル改訂版（厚生労働省）

URL : <https://www.mhlw.go.jp/content/000500646.pdf>

2 転倒・転落の予防

高齢者の方は、普段生活している場所でも小さな段差でつまずいてしまい骨折を伴うような事故となってしまう場合があります。施設内の段差や滑りやすい場所などの危険箇所には注意するとともに、整理整頓を心掛けるようにしてください。

足元がよく見えるよう廊下や部屋の明るさにも注意してください。また、床が濡れた場所では滑って転倒してしまうことがあります。飲み物などがこぼれてしまった場合には、できる限りすぐに拭き取るように心掛けてください。

3 誤嚥・窒息の予防

脳梗塞や神経疾患のある高齢者は、嚥下運動が阻害され飲み込みにくくなっていることや咳をしづらくなっていることもあり、誤嚥や窒息が生じやすくなっています。

ゼリー、餅、大きな肉はもちろん、飲み込みにくい寿司やパンなどでも窒息事故が起きています。食べ物は小さく切って食べやすい大きさにするとともに飲み物を用意するなど、ゆっくりと食事に集中できるような環境作りや職員さんが食事の様子を見守るなど適宜注意してください。

万一、食事中にむせるなどの症状があった場合は、食後の容態変化にも十分注意しましょう。

4 熱中症の予防

高齢者は体温調整機能が低下していることが多く、水分が摂れている場合でも喉の渇きを感じにくい場合があります。

また、頻回の排泄などで、お世話をする方に迷惑を掛けたくないという思いから水分摂取を控える利用者さんもおられます。我慢をさせることなく適切な水分補給を行ってください。

暑いときは必要に応じてエアコンや扇風機などを利用することで、熱中症を防ぐことが可能です。体調不良の訴えがある場合は、特に注意するようにしてください。

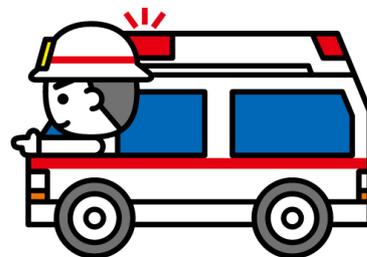
5 ヒートショックの予防

冬季は室内外の温度差が著しくなることが原因となり、救急事故が増える傾向があります。急激な温度変化は血圧を大きく変動させ、様々な症状を引き起こす場合があります。居室だけではなく風呂場や脱衣所、トイレ、廊下などの温度にも注意し、急激な温度変化が起きない環境を作りましょう。

6 服薬後にも注意

処方薬によっては、副作用で思った以上にふらついてしまいベッドから起き上がる際などに転倒・転落してしまうことがあります。

処方薬の副作用を確認し、特に普段からの処方薬が変わったタイミングなどは、服薬後の容態変化に注意しましょう。



2 緊急事態に備えましょう

1 かかりつけ医・協力病院との連絡体制の構築

症状が悪化する前に受診することが大切です。体調の変化に気付き、異常を感じた場合には早めに医療機関を受診できるよう、普段からかかりつけ医や協力病院との連携を密にし、容態が変化したときには相談や受診ができる体制を作っておきましょう。

緊急と判断した場合は、迷わずに119番に通報し救急車を要請してください。

緊急かどうかの判断は、かかりつけ医や協力病院への相談のほか、全国版救急受診アプリ「Q助」や総務省消防庁発行「救急車利用リーフレット」なども活用することができます。

また、緊急性のない場合は、施設等の送迎用車両やタクシーなどの利用をお願いします。

詳しくは「4 資料編」の各資料を参照してください。

2 生活状況の記録、「救急情報連絡シート」の活用

利用者さんの普段の様子を一番よく御存じなのは施設職員の皆さんです。医療機関での治療に必要な服薬、持病等の情報や普段の歩行や食事等の状況、介助、介護の要否等の情報はもちろんですが、直近数日の体調や食事の様子についても治療を行う上で重要な情報となることがあります。受診する医療機関に速やかに情報提供ができるよう、普段からの記録と情報の整理が重要です。

また、119番通報をされる場合に、到着した救急隊員にスムーズに情報提供いただけるよう「救急情報連絡シート」の作成をお願いします。



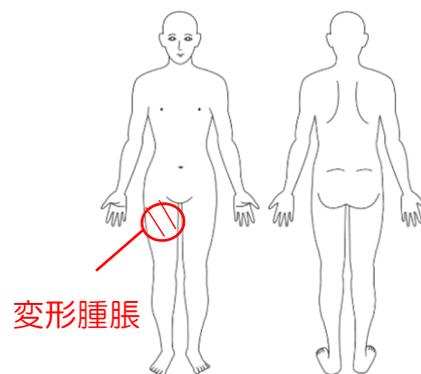
救急情報連絡シート<記載例> ※様式は 27 頁に掲載

◆傷病者情報

ふりがな 氏名	しょうぼう たろう 消防 太郎	<input checked="" type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性	電話	〇〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇
生年月日	<input type="checkbox"/> 大正 <input checked="" type="checkbox"/> 昭和 <input type="checkbox"/> 平成 <input type="checkbox"/> 令和 〇 年 〇 月 〇 日 (〇〇歳)	職業	無職	
住所	〇〇市〇〇町字〇〇 〇〇番地 老人ホーム〇〇〇〇〇			

◆医療情報

主訴 症状の 経過	右大腿骨頸部骨折の疑い 本日、15時ごろトイレで足を滑らせ転倒。 右股関節部の痛み、変形腫脹。 囑託医が往診し、上記により救急車要請。			
意識	<input checked="" type="checkbox"/> 清明 <input type="checkbox"/> 意識障害あり JCS - (<input type="checkbox"/> R <input type="checkbox"/> I <input type="checkbox"/> A)			
呼吸	20回/分 <input checked="" type="checkbox"/> 正常 <input type="checkbox"/> 浅い <input type="checkbox"/> 深い <input type="checkbox"/> 湿性 <input type="checkbox"/> 乾性 <input type="checkbox"/> 喘鳴 <input type="checkbox"/> 下顎			
脈拍	84回/分 <input checked="" type="checkbox"/> 正常 <input type="checkbox"/> 弱い <input type="checkbox"/> 強い <input type="checkbox"/> 不整 <input type="checkbox"/> 左右差 ()			
血圧	140 / 90 mmHg ⇒ 2回目 〇時 〇分 135 / 88 mmHg			
体温	36.5 °C <input checked="" type="checkbox"/> 腋窩 <input type="checkbox"/> 鼓膜 <input type="checkbox"/> その他 ()			
ECG				
SpO2	99 % 酸素投与 L/分 ⇒ %			
輸液・投薬				
ADL	歩 行： <input type="checkbox"/> 自立 <input checked="" type="checkbox"/> 一部介助 <input type="checkbox"/> 常時臥床 意思疎通： <input checked="" type="checkbox"/> 可能 <input type="checkbox"/> 一部可能 <input type="checkbox"/> 不可			
過去の病気	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり (脳梗塞)			
治療中の病気	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり (高血圧、糖尿病)			
かかりつけ医	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり (〇〇〇病院)			



□裏面のチェックリストもご活用ください。

□本シートに関するお問い合わせ先 横手市消防本部救急課救急係 0182-32-1247

救急要請時のチェックリスト

～確認もれ・お忘れ物はないですか？～

【連絡】

- 家族・関係者等に連絡
- 主治医に連絡 () 先生
- かかりつけ病院に連絡 () 病院
- 救急車を呼んだことを他の職員に周知
- その他 ()

【持ち物】

- 医療保険証 介護保険証
- お薬手帳 ペースメーカー手帳
- 処方薬 その他 (介護記録)

【その他】

- 救急車に同乗される方は決まりましたか？
- 医師 看護師 介護職員 その他 ()

～救急車が到着しましたら、案内誘導をお願いします～

その他、救急隊に伝えたいこと

(メモ欄)

- ・脳梗塞後遺症により、右上下肢に軽度麻痺があります。

記載例 ○難聴で左側からお声がけしています。 ○透析シャントは右手です。
○右目の視力がありません。

□本シートは横手市ホームページに掲載しています。

URL : <https://www.city.yokote.lg.jp/syoubou/1001575/1008769.html>

3 応急手当の習得

いざというときに心肺蘇生法や AED の使用、止血等の応急手当を行うことができるよう救急に関する講習を受講しましょう。横手市消防本部では定期的に応急手当講習会を開催しているほか、皆様の施設に消防職員が出向して開催する出張講習も行っております。消防本部ホームページでも情報提供を行っておりますので、ご活用ください。

[参考] 救命講習に関するお知らせ（横手市消防本部ホームページ）

URL : <https://www.city.yokote.lg.jp/syoubou/1001577/1004626.html>

◆救命講習の種類

- 救命入門コース（1 時間 30 分）
胸骨圧迫と AED の使用方法を学べます。
- 普通救命講習（3 時間）
AED の使用方法を含めた心肺蘇生法、気道異物除去法、止血法を学べます。
- 上級救命講習（8 時間）
AED の使用方法を含めた心肺蘇生法（成人・小児・乳児）、けがの手当、搬送法などの幅広い応急手当を学べます。

◆定期普通救命講習会（会場：消防本部）

- 毎月第三日曜日 午前 9 時～正午（3 時間）
- 毎月「9」の付く日（9日、19日、29日）
午後 6 時～午後 7 時（1 時間）
※「9」の付く日の 1 時間講習は、合計 3 時間受講しますと普通救命講習の修了証が交付されます。

◆出張講習

- 10 名ほどの参加者がそろう場合は、皆さんの地域や施設など希望の会場に消防職員が出向し講習会を開催しています。
- 希望される講習の種類についても、ご相談ください。

◆救命講習に関するお問い合わせ先

横手市消防本部救急課救急係 0182 - 32 - 1247

3 救急要請のポイント

1 初動のポイント（必ずしていただきたいこと）

ア 大声で助けを求める

- ・利用者さんの異変に気付いたら、直ちに大きな声で施設内に知らせ助けを求めましょう。
- ・集まった職員に指示を出しましょう。

イ 119番通報

- ・手分けをして心肺蘇生法等の応急手当と119番通報をしましょう。
- ・大まかな119番通報の流れは次のとおりです。
指令員が質問形式でお聞きします。
 - 住所・施設名・電話番号
 - いつ？ 誰が？ どこで？ どうした？
 - 今の状況（意識がない、呼吸がない など）
 - 行っている応急手当（酸素投与、吸引、止血、胸骨圧迫など）

[利用者さんが急に倒れた場合の例]

指令員「はい。119番消防です、火事ですか、救急ですか？」

あなた「救急です。」

指令員「救急車が向かう場所の住所を教えてください。」

あなた「横手市〇〇町〇〇番地〇〇〇〇ホームです。」

指令員「わかりました。どなたがどうされましたか？」

あなた「利用者さんが食後に急に倒れました。」

指令員「わかりました。**(この時点で救急隊に出動が指令されます)**

救急隊は出動しましたので、利用者さんの様子を詳しく教えてください。利用者さんの生年月日と性別を教えてください。」

あなた「〇年〇月〇日生まれの男性です。」

指令員「わかりました。今、利用者さんは仰向けになっていますか？」

あなた「はい、床に横になっています。」

指令員「それでは、意識の確認をしてもらいます。大声で呼び掛け、肩を叩いてください。何か反応はありますか？」

あなた「ありません。」

指令員「わかりました。つぎに呼吸を見ます。利用者さんの胸のあたりを見てください。普段通りの呼吸はありますか？上下に動いていますか？」

(次ページに続きます)

ウ 応急手当の実施

- 落ち着いて応急手当を実施してください。
- もし方法が分からなければ、指令員が電話越しに説明しますので、そのとおりに実施してください。
※スピーカフォンの機能を確認しておくと同役立ちます。
- 119番通報と応急手当を手分けして実施できない場合は、通報をしてから応急手当を実施してください。

(前ページからの続き)

あなた「動いてないです。」

指令員「それでは、心臓が止まっている可能性がありますので、胸骨圧迫を実施してください。方法はご存じですか？」

あなた「ちょっと自信がないです。」

指令員「分かりました。私が説明しますので、そのとおりにしてください。まず、電話をスピーカフォンにできますか？」

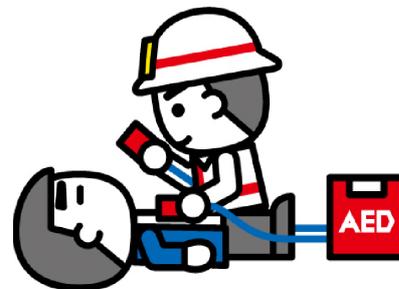
あなた「はい。(電話機の操作)できました。」

指令員「それでは、利用者さんの真横に膝立ちになってください。あなたの両手を重ね、胸の真ん中、両方の乳首の間に当てます。そのまま、肘を伸ばして真上から胸が約5cm沈む強さでリズムよく押します。リズムはこうです。1、2、3、4、5……………」

あなた「(胸骨圧迫の実施) 1、2、3、4、5……………」

指令員「救急隊はもうすぐ到着します。救急隊があなたの横に来るまで続けてください。」

あなた「分かりました。」



2 その他の実施事項（出来ればしていただきたいこと）

ア 施設関係者・家族等への連絡

- ・可能であれば親族等のキーパーソンとなる方への連絡を行い、搬送先医療機関に向かってもらうか、無理であれば常時連絡が取れるように待機をしてもらってください。

イ かかりつけ医・協力病院への連絡

- ・施設側であらかじめ搬送先医療機関を交渉・確保されている場合は、その医療機関を優先的に考慮しますが、病態や状況によっては救急隊の判断で別の医療機関に搬送する場合があります。
- ・搬送先にならない場合でも、かかりつけ医には診療情報の提供を依頼することがありますので、可能な範囲内で連絡していただくようお願いいたします。

3 救急隊が到着したら

ア 玄関への誘導員の配置、他の利用者への協力要請

- ・施設玄関に誘導の職員を配置してください。
※救急隊員は3～4名乗車しており、後から施設に入る隊員がいる場合がありますので、可能であれば複数名の職員を配置してください。
- ・救急隊員はストレッチャーを搬送するためにエレベーターを使用することがあります。救急隊員が優先して使用できるように館内放送等を活用してアナウンスを行ってください。

イ 救急情報連絡シートの提供

- ・事前に作成した「救急情報連絡シート」を準備してください。
- ・救急隊員はシートを医療機関まで持参し情報提供を行いますので、あらかじめコピーを用意してください。

4 救急車への同乗

搬送される利用者の状況がわかり、医療機関に申し送りができる職員さんの同乗をお願いします。カルテ等の申し送りに必要なものを持参してください。

4 資料編

- ・ 成人の救命処置の手順（新型コロナウイルス感染症対応版）
- ・ AED 使用の手順
- ・ ためらわずに救急車を呼んでいただきたい症状（高齢者編・成人編）
- ・ 屋内における事故の予防と対策（高齢者編）
- ・ 全国版救急受診アプリ「Q助」
- ・ 救急情報連絡シート（様式） ※コピーしてご使用ください

○関連ホームページ URL

横手市消防本部：応急手当の仕方（救命講習の手順・AED 使用の手順）

<https://www.city.yokote.lg.jp/syoubou/1001575/1004629.html>

検索ワード [横手市 応急手当の仕方]

総務省消防庁：救急お役立ちポータルサイト「救急車利用リーフレット」

<https://www.fdma.go.jp/publication/portal/post9.html>

検索ワード [消防庁 救急車利用リーフレット]

総務省消防庁：救急お役立ちポータルサイト「救急事故防止リーフレット」

<https://www.fdma.go.jp/publication/portal/post4.html>

検索ワード [消防庁 救急事故防止リーフレット]

総務省消防庁：全国版救急受信アプリ「Q助」

<https://www.fdma.go.jp/mission/enrichment/appropriate/appropriate003.html>

検索ワード [消防庁 Q助]

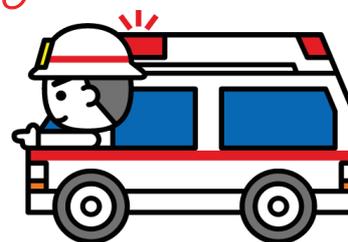
「Q助」QRコード



救命処置の手順

(新型コロナウイルス対応Ver)

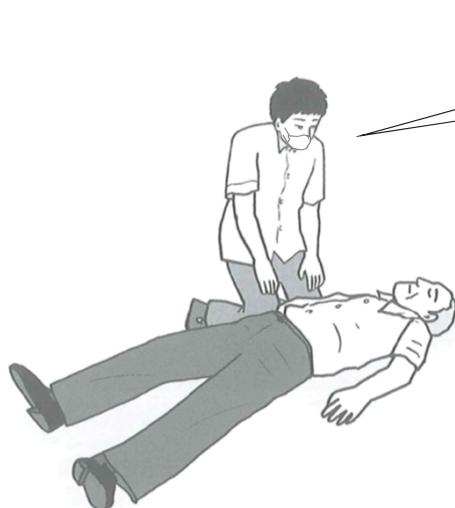
※すべての人にコロナウイルスの感染があるものとして対応しなければいけません。必ず自分もマスクを着用して実施しましょう。



① 反応(意識)を確認する

周囲を見渡して安全の確認をします。 「危険性はありません。」

声をかけながら近づき、肩を軽くたたきながら大声で呼びかけます。



どうしました?

※相手の顔に近づき過ぎないようにしましょう。

目を開けない、返答、目的のあるしぐさがない、けいれんのような全身がひきつるような動きは「反応なし」と判断します。

「反応ありません。」

② 助けを呼ぶ



救助者があなた一人の場合は、まず119番通報し、
すぐ近くにAEDがあることがわかっていればAEDに取りにいきます。
119番通報すると、電話を通してあなたが行うべきことを指導してくれます。

③ 呼吸の確認

「普段どおりの呼吸」をしているか確認します。

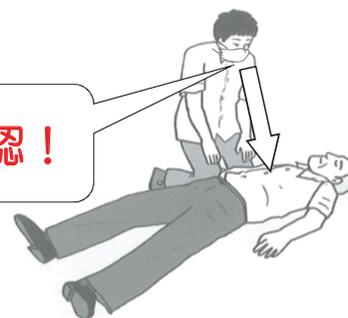
10秒以内で、倒れている人の
胸と腹部の上がり下がりを見ます。

※相手の顔に近づき過ぎないようにしましょう。

- 10秒以内で確認してもよくわからない。
- しゃくりあげるような途切れ途切れで、
あごや口だけの動きがみられる場合
(死戦期呼吸といいます)。

この2つの状態も「呼吸なし」と判断します。

呼吸の確認！



普段どおりの呼吸ありません！

胸骨圧迫を実施する前に、エアロゾル(※)の飛散防止のため、タオルやハンカチで
鼻と口を覆いましょう。(マスクや衣服でも代用できます)

※エアロゾルと感染防止について



Point

エアロゾルは空気中に浮遊する微粒子のことで、新型コロナウイルス感染症
の場合は、体内から排出されるウイルスを含むエアロゾルを吸い込むことで
感染する「エアロゾル感染」の対策が必要です。

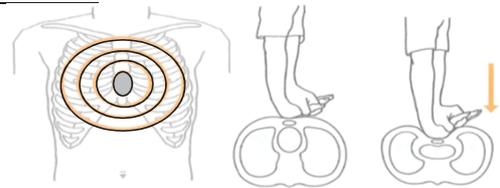
④ 胸骨圧迫

「普段どおりの呼吸」がなければ「心停止」と判断します。鼻と口を覆い、エアロゾル飛散防止体制が整ったらただちに胸骨圧迫を行います。

1) **胸の真ん中**に片方の手の付け根を置きます。
他方の手をその上に重ねます。

2) 垂直に体重が加わるよう
両肘をまっすぐに伸ばし、
手の付け根部分に体重をかけ、
胸が**約5cm沈むように強く速く**圧迫します。

3) 圧迫を緩めるときは、**胸が元の高さにしっかり戻るまで**
十分に力を抜きます。自分の手が胸から離れないようにします。
圧迫の**テンポは1分間に100~120回**で行います。



胸骨圧迫！



⑤ 気道確保と人工呼吸

※感染防止のため、人工呼吸は実施しないで下さい。

(ただし、小さな子供たちの場合はしばしば呼吸が悪くなって心停止になります。そのため講習を受けて人工呼吸の技術を身につけていて、人工呼吸を行う意思がある場合には実施してください。)

⑥ 心肺蘇生（胸骨圧迫）の継続

- 胸骨圧迫の中断時間はできるだけ短く、10秒以上にならないようにします。
- 他に救助者がいる場合、1～2分を目安に交代するのがよいでしょう。
- 胸骨圧迫は救急隊に引き継ぐまで絶え間なく続けて下さい。

心肺蘇生を中断する場合は次のとおりです。

- 1) 救急隊の指示に従って引き継いだとき。
- 2) 普段どおりの呼吸や、目を開ける、目的のある仕草があるとき。

※救急隊が到着し、救急隊に引継いだあとは、速やかに石鹸と流水で手と顔を十分に洗いましょう。鼻と口を覆うのに使用したハンカチやタオルは直接触れずに廃棄しましょう。



勇気をもって行いましょう

救命処置は子供に対しても成人との違いをできるだけ気にせず実行できるよう工夫されています。

子供の命に危険が迫っているときは、年齢を気にすることなく心肺蘇生を行うことが効果的です。

119番通報や大声で助けを呼ぶことでも、胸骨圧迫でも、人工呼吸でも、「何か」を実施すれば効果があります。

最もよくないのは「何もしないこと」です。

※小さな子供たちはしばしば呼吸が悪くなって心停止になります。そのため講習を受けて人工呼吸の技術を身につけていて、人工呼吸を行う意思がある場合には実施してください。

「何か」を勇気を持って行ってください。

AED使用の手順



① AEDの到着と準備

心肺蘇生法を行っている途中でAEDが届いたら
すぐに使う準備を始めます。

AEDの準備中も心肺蘇生を続けます。

AEDを傷病者近くに置きます。



**AEDもってきました。
AED使います！**



AEDの電源ボタンを押します。

ふたを開けると自動的に電源が入る機種もあります。

以降は**音声メッセージ等の指示に従って操作します。**

(どの機種も同じような手順で使えるよう設計されています)

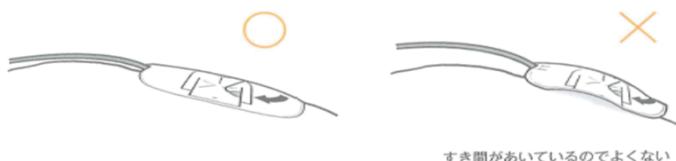
② 電極パッドを貼る

衣類を取り除き、胸をはだけます。

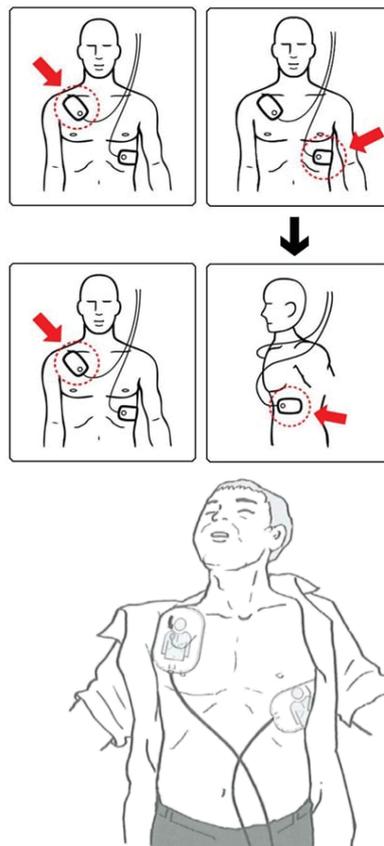
**小学生～大人用電源パッド（通常モード）と
未就学児用電源パッド（未就学児用モード）があります。**

電極パッドの袋を開封し、電極パッドをシールからはがし、
胸の右上（右鎖骨の下）および左下（脇の5～8 cm下）に
粘着面を絵のとおりしっかりと貼り付けます。

電極パッドは、肌との間に隙間を作らないようにして下さい。



貼り付ける際も**可能であれば胸骨圧迫を継続してください。**



※ 注意をはらうべき状況

1) 胸が濡れている場合

乾いたタオルで胸を拭いてから電極パッドを貼り付けましょう。



2) 貼り薬がある場合

電極パッドを貼り付ける位置に、貼り薬や湿布薬がある場合は
それを剥がし、残った薬剤をふき取ってから電極パッドを貼り付けます。

3) 医療器具が埋め込まれている場合

ペースメーカーなどが埋め込まれている場合、胸に硬いこぶのような
でっぱりが見えます。このでっぱりを避けて貼ります。



※ 未就学児用電極パッド（未就学児モード）

未就学児の場合（小学校に入る前）に使用します

未就学児用電極パッドが備わっている場合、それを使います。
未就学児用モードに切り替える機種もあります。

**未就学児用電極パッド（モード）がない場合は
小学生～大人用パッドを使用します。**

電極パッドと電極パッドが重なりあったり、
触れ合わないよう注意します。



③ 心電図の解析

電極パッドを貼り付けると「体に触れないで下さい」などと音声メッセージが流れ、自動的に心電図の解析が始まります。

このとき注意を促します。
誰も倒れている方に触れていないことを確認します。



AEDの指示に従って操作して下さい。

④ 電気ショックと心肺蘇生の再開

1) 電気ショック必要のメッセージが流れたら

AEDが心電図を解析して、
電気ショックが必要な場合は音声メッセージとともに、
自動的に充電を開始します。
充電が完了するとショックボタンが点灯し、
充電完了の連続音が出ます。
周囲の人に体に触れないよう声をかけて、
自分を含めて誰も触れていないことを必ず確認します。

点灯しているショックボタンを押します。

電気ショックのあとは、
ただちに胸骨圧迫を再開します。

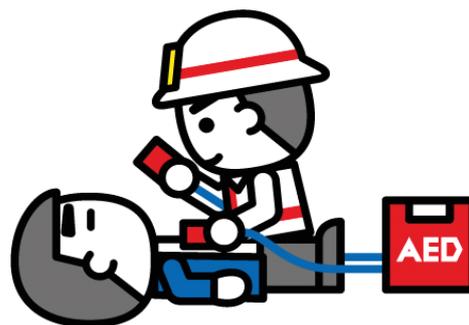
2) 電気ショック不要のメッセージが流れたら

AEDが心電図を解析して、電気ショックが不要の場合は
音声メッセージが流れます。
ただちに胸骨圧迫を再開します。



⑤ 心肺蘇生とAED手順の繰り返し

心肺蘇生を再開して2分ほど経ったら、再びAEDが自動的に心電図の解析を行います。音声メッセージに従って体から手を離し、周りの人も離れます。



**救急隊に引き継ぐまで
心肺蘇生とAEDの手順を繰り返します。
電極パッドは剥がさずに、電源も入れたままにしておいてください。**

※ ポイント

電気ショックが必要と解析した場合に、ショックボタンを押さなくても自動的に電気ショックが行われる機種（オートショックAED）もあります。カウントダウンとブザーの後に電気が流れます。この場合も音声メッセージに従って体から離れます。直ちに胸骨圧迫を開始してください。



画像提供：JEITA 電子情報技術産業協会

突然のこんな症状の時にはすぐ119番!!

高齢者



顔

- 顔半分が動きにくい、しびれる
- 笑うと口や顔の片方がゆがむ
- ろれつがまわりにくい
- 見える範囲が狭くなる
- 周りが二重に見える

頭

- 突然の激しい頭痛
- 突然の高熱
- 急にふらつき、立ってられない

胸や背中

- 突然の激痛
- 急な息切れ、呼吸困難
- 旅行などの後に痛み出した
- 痛む場所が移動する

手・足

- 突然のしびれ
- 突然、片方の腕や足に力が入らなくなる

おなか

- 突然の激しい腹痛
- 血を吐く

意識の障害

- 意識がない(返事がない)又はおかしい(もうろうとしている)

吐き気

- 冷や汗を伴うような強い吐き気

けいれん

- けいれんが止まらない

飲み込み

- 物をのどにつまらせた

けが・やけど

- 大量の出血を伴うけが
- 広範囲のやけど

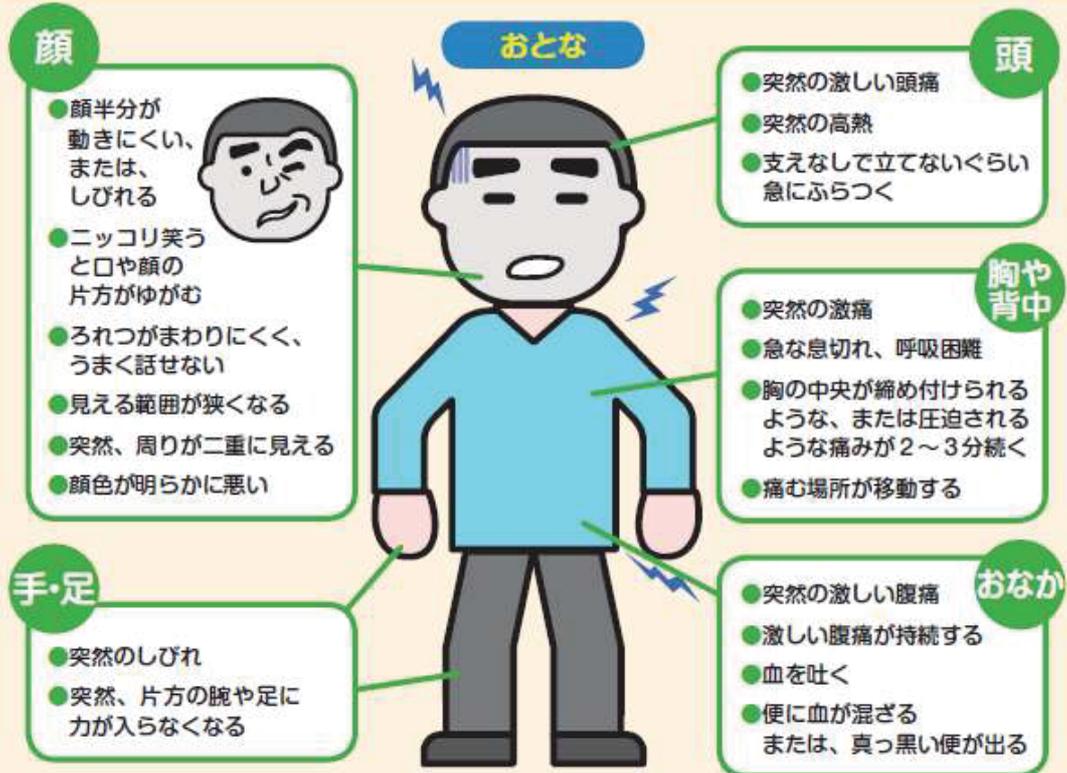
事故

- 交通事故や転落、転倒で強い衝撃を受けた

◎その他、いつもと違う場合、様子がおかしい場合◎
高齢者は自覚症状が出にくい場合もありますので注意しましょう。

※迷ったら「かかりつけ医」に相談しましょう!

重大な病気やけがの可能性ががあります！



意識の障害

- 意識がない（返事がない）またはおかしい（もうろうとしている）
- くったりしている



けいれん

- けいれんが止まらない
- けいれんが止まっても、意識がもどらない



けが・やけど

- 大量の出血を伴うけが
- 広範囲のやけど

吐き気

- 冷や汗を伴うような強い吐き気

飲み込み

- 物をのどにつまらせて、呼吸が苦しい、意識がない

事故

- 交通事故にあった（強い衝撃を受けた）
- 水におぼれている
- 高いところから落ちた

◎その他、いつもと違う場合、様子がおかしい場合

こんな事故が多く起きています。

実は多い 家の中にある 危険な場所

事故予防チェック!

1位 転倒 段差、玄関、廊下など

2位 転落 階段、ベッド、脚立、椅子など

3位 窒息 食物（餅・肉等）、薬等の包装など

4位 ぶつかる 家具、人、柱、ドアなど

◀ **他にも危険な事例がたくさんあります。確認してみましょう。**

救急お役立ちポータルサイト **FDMA 消防庁** 救急ポータルサイト 検索 ※発生事例の多い順に番号をつけています。参考資料「東京消防庁救急搬送データからみる日常生活事故の実態」

事故の原因を知って対策をしましょう!

1位 転倒 段差、玄関、廊下など

- 段差につまずかないよう気をつけましょう
- 転倒を防ぐために整理整頓を心がけましょう
- 階段、廊下、玄関、浴室など滑り止め対策をしましょう

2位 転落 階段、ベッド、脚立、椅子など

- 階段などには手すりを配置しましょう
- ベッドにも転落防止の柵をつけましょう
- 脚立などを使用して作業をする時は補助者に支えてもらいましょう

3位 窒息 食物（餅・肉等）、薬等の包装など

- 細かく調理。ゆっくりよく噛むことで窒息予防
- お茶などの水分を取りながら食事をしましょう
- 急に話しかけて、あわてさせないように気をつけましょう

4位 ぶつかる 家具、人、柱、ドアなど

- 慌てず、周りをよく見て行動しましょう
- 通路などに物を置かないようにしましょう
- 暗いところは十分な明るさを確保しましょう

事故を防ぐために ● 事故防止にはご家族などの協力も大変重要です ● 熱中症対策には、早めの水分補給を心掛けましょう

FDMA 消防庁 救急ポータルサイト 検索 ※発生事例の多い順に番号をつけています。参考資料「東京消防庁救急搬送データからみる日常生活事故の実態」

出典：総務省消防庁「救急車利用リーフレット」

全国版救急受診アプリ

Q助

きゅーすけ



以下はスマートフォン「Q助」のスクリーンショット。画面には「全国版救急受診アプリ Q助」というタイトルと、救急車のアイコンが表示されています。症状リストには「呼吸をしていない。息がない。」、「脈がない。心臓が止まっている。」、「水没している。沈んでいる。」、「冷たくなっている。」などが表示されています。また、「どれにもあてはまらない」という選択肢も確認できます。

症状の緊急度を素早く判定!!! 救急車を呼ぶ目安に!!!

消防庁では、住民の緊急度判定を支援し、利用できる医療機関や受診手段の情報を提供するため、緊急度判定プロトコルver.2（家庭自己判断）をもとに全国版救急受診アプリ「Q助 きゅーすけ」を作成しました。
<大阪大学医学部附属病院長の協力を得て作成しています。（特許第6347911号）>

スマートフォン用アプリ



総務省消防庁「Q助」案内サイト

https://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9_6/kyukyu_app.html



総務省消防庁

ご利用方法

急な病気やけがをしたとき、該当する症状を画面上で選択していくと、緊急度に応じた必要な対応（「いますぐ救急車を呼びましょう」、「できるだけ早めに医療機関を受診しましょう」、「緊急ではありませんが医療機関を受診しましょう」又は「引き続き、注意して様子を見てください」）が表示されます。

その後、119番通報、医療機関の検索（厚生労働省の「医療情報ネット」にリンク）や、受診手段の検索（一般社団法人全国ハイヤー・タクシー連合会の「全国タクシーガイド」にリンク）を行うことができるようになっています。



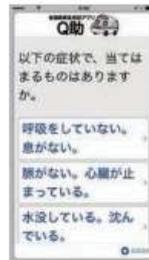
- 1 緊急度の高い
症状選択
- 2 年代選択
- 3 症状選択
該当する症状を画面上で選択します。
- 4 結果画面
緊急度に応じた必要な対応が表示されます。
「いますぐ救急車を呼びましょう」
「できるだけ早めに医療機関を受診しましょう」
「緊急ではありませんが医療機関を受診しましょう」
「引き続き、注意して様子を見てください」



画面設定



視覚効果「明度反転」



文字の大きさ「大」



緊急度の分類説明

総務省消防庁「Q助」案内サイト

全国版救急受診アプリ

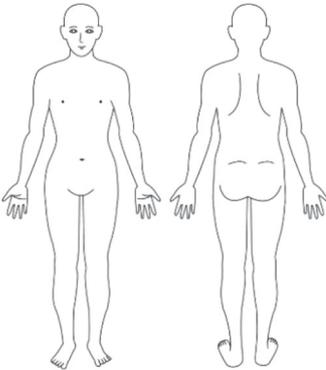


救急情報連絡シート

◆傷病者情報

ふりがな 氏名	<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性	電話	
生年月日	<input type="checkbox"/> 大正 <input type="checkbox"/> 昭和 <input type="checkbox"/> 平成 <input type="checkbox"/> 令和 年 月 日 (歳)	職業	
住所			

◆医療情報

主訴 症状の 経過			
意識	<input type="checkbox"/> 清明 <input type="checkbox"/> 意識障害あり	JCS -	(<input type="checkbox"/> R <input type="checkbox"/> I <input type="checkbox"/> A)
呼吸	回/分 <input type="checkbox"/> 正常 <input type="checkbox"/> 浅い <input type="checkbox"/> 深い <input type="checkbox"/> 湿性 <input type="checkbox"/> 乾性 <input type="checkbox"/> 喘鳴 <input type="checkbox"/> 下顎		
脈拍	回/分 <input type="checkbox"/> 正常 <input type="checkbox"/> 弱い <input type="checkbox"/> 強い <input type="checkbox"/> 不整 <input type="checkbox"/> 左右差 ()		
血圧	/ mmHg ⇒ 2回目 時 分 / mmHg		
体温	℃ <input type="checkbox"/> 腋窩 <input type="checkbox"/> 鼓膜 <input type="checkbox"/> その他 ()		
ECG			
SpO2	% 酸素投与 L/分 ⇒ %		
輸液・投薬			
ADL	歩 行： <input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> 一部介助 <input type="checkbox"/> 常時臥床 意思疎通： <input type="checkbox"/> 可能 <input type="checkbox"/> 一部可能 <input type="checkbox"/> 不可		
過去の病気	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり ()		
治療中の病気	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり ()		
かかりつけ医	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり ()		

□裏面のチェックリストもご活用ください。

□本シートに関するお問い合わせ先 横手市消防本部救急課救急係 0182 - 32 - 1247

救急要請時のチェックリスト

～確認もれ・お忘れ物はないですか？～

【連絡】

- 家族・関係者等に連絡
- 主治医に連絡 () 先生
- かかりつけ病院に連絡 () 病院
- 救急車を呼んだことを他の職員に周知
- その他 ()

【持ち物】

- 医療保険証
- 介護保険証
- お薬手帳
- ペースメーカー手帳
- 処方薬
- その他 ()

【その他】

- 救急車に同乗される方は決まりましたか？
- 医師
 - 看護師
 - 介護職員
 - その他 ()

～救急車が到着しましたら、案内誘導をお願いします～

その他、救急隊に伝えたいこと

(メモ欄)

記載例 ○難聴で左側からお声がけしています。 ○透析シャントは右手です。
○右目の視力がありません。

□本シートは横手市ホームページに掲載しています。

URL : <https://www.city.yokote.lg.jp/syoubou/1001575/1008769.html>

高齢者福祉施設における救急要請ガイドブック
令和5年1月作成（第1版）

横手市条里一丁目1番1号

横手市消防本部

救急課 0182-32-1247

通信指令室 0182-32-1112

施設の情報

施設名

住 所
